

# 塩の功罪

梅雨…ナメクジをよく見かける季節です。“ナメクジに塩”と言われるとおり、「塩」はナメクジにとっては生命を脅かすものですが、人間にとっては生命を維持するためにはなくてはならないものです。

財務省による「塩需給実績」(※1) から、塩の消費量と供給量について見てみましょう(【表1, 表2】)。消費量のうち生活用は年々減少傾向にあり、平成9年度と19年度を比較してみると35%減になっています。また供給量では国内の生産量は12~15%で、8割以上が輸入であることがわかります。

《塩の消費量》(※)

《塩の供給量》

【表1】 (万トン)

	生活用	業務用	計
平成9年度	31	917	948
平成10年度	28	881	909
平成11年度	28	921	948
平成12年度	26	912	938
平成13年度	24	835	858
平成14年度	25	877	902
平成15年度	24	884	908
平成16年度	22	910	932
平成17年度	22	910	932
平成18年度	22	883	905
平成19年度	20	890	910
割合	2~3%	97~98%	

【表2】 (万トン)

	国内産	外国産	計
平成9年度	133	829	962
平成10年度	129	755	884
平成11年度	133	810	942
平成12年度	137	816	953
平成13年度	136	744	880
平成14年度	128	760	888
平成15年度	126	775	901
平成16年度	123	825	948
平成17年度	123	828	951
平成18年度	117	807	924
平成19年度	114	800	914
割合	12~15%	85~88%	

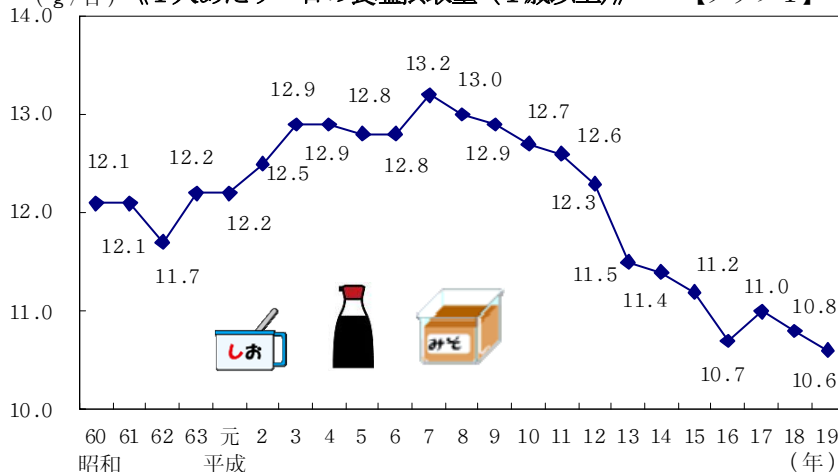


(※)

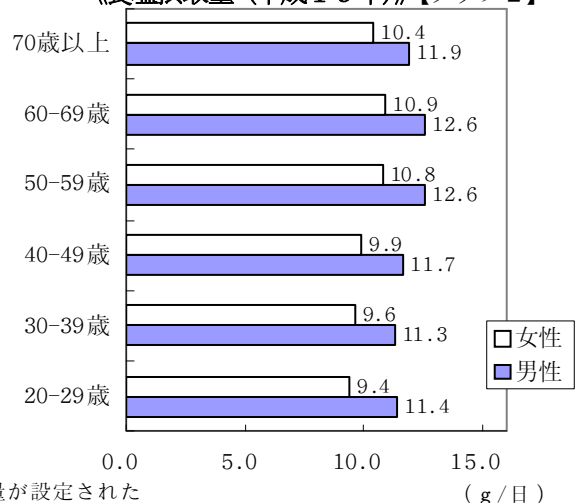
- ・「生活用」とは小売店を通じて販売され、家庭用および飲食店等で使用されるもの
- ・「業務用」とは食料品その他の物資の製造等および工業用に使用されるもの

下のグラフは厚生労働省の「国民健康・栄養調査(※2)」の結果から、食塩摂取量について表したものです。健康志向を反映しているのか、摂取量は年々減少してきてはいますが、厚生労働省で定めている食事摂取基準(2005年版)(※3)の目標量[男性10g/日未満、女性8g/日未満]に達していませんでした(【グラフ1】)。また、年齢別に見ると、男女共に50-69歳の摂取量が多いことがわかります(【グラフ2】)。

(g/日) 《1人あたり一日の食塩摂取量(1歳以上)》 【グラフ1】



《食塩摂取量(平成19年)》【グラフ2】



\* 食事摂取基準は2005年版(H17~21年度に使用)から男女別に目標量が設定されたが、それ以前は「10g/日以下が望ましい」とされていた。また、平成21年5月29日発表の同2010年版では、高血圧の予防及び治療の指針値を考慮して、男性が9g/日未満、女性が7.5g/日未満と設定された。

さて、相撲で土俵の邪気をはらい清めるためにまかれる「清めの塩」は、1日に45kg、15日間で約650kg以上が用意されるそうです。「ハッキョイ！」とは、「発気揚揚(はっきようよう)」がつまってできたかけ声で、気分を高めて全力で勝負しようという意味なのだそうですが(※4)、塩をかけられてすっかり元気をなくすナメクジと違い、塩で土俵を清めた力士達には力と技の気迫相撲を期待したいと思います。

(次回大相撲は名古屋場所で、7月12日~26日に開催です)

(※1) 財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp/> (サイト内検索機能で「塩需給実績」を検索)

(※2) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html/> (「分野別一覧」→「保健衛生」)

(※3) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

(サイト内検索機能で「食事摂取基準」を検索→「ナトリウム量」参照)

(※4) 日本相撲協会ホームページ <http://www.sumo.or.jp/>

(参考) (財) 塩事業センター <http://www.shiojigyo.com/>

